

「鶏頂山開拓賛歌」

栃木県日光市・鶏頂山開拓

鶏頂山^{けいちようざん}開拓地は、栃木県北西部の塩谷郡藤原町(現日光市)の鶏頂山山腹にあり、近くを日塩もみじラインが通っている。

標高約1200[㍎]の高冷地で、起伏の多い火山灰土である。9月下旬には霜が降り、冬期にはマイナス20度の寒さと2[㍎]の降雪となる。

49(昭和24)年に、満州開拓など外地からの引き揚げ者や県内から20戸45名が入植したが、厳しい自然条件や禽獣^{きんじゆう}の被害により、作物の収穫はほとんど得られなかった。下山・離農する人も多く、一時は9戸にまで減ってしまった。

残った人たちは「和と協力」を信念に、悪条件を克服する努力を続け、作物選定は困難を極めたが、関係機関の協力もあり、高冷地野菜として夏出しの早生ダイコンの栽培に成功した。生産物は7[㍎]離れた川治や20[㍎]離れた鬼怒川までの山道を歩いて販売して現金収入を得た。

51年に鶏頂山開拓生産農業協同組合(55年に鶏頂山開拓農業協同組合に改名)を設立し、組合共同により京浜中央市場への出荷が開始され、名声を得るに至った。

改名した頃から、当地区は基本営農類型地区の指定を受け、二戸の新規入植者を迎え、機械化を促進して開拓地の総面積は160[㍎]まで伸びた。

その後、水道、電話などのインフラ、出荷施設の建造、道路整備などが行われ、生活も豊かになってきた。

農産物は東京市場でも好評で「鶏頂山大根」は消費者に大人気となる。

69年には、朝日新聞社主催の営農集団コンクールで野菜栽培集団経営日本一として、当農協が朝日農業賞を受賞した。

同年、開拓20周年を向かえ、式典と共に記念碑が建てられた(写真)。これまでくじけずに開拓を成し遂げてきた誇りを「鶏頂山開拓賛歌」に刻んだ。

現在農家戸数は15戸で、雨よけハウスによるハウレンソウ(約30[㍎]で年3・5回の生産)をメインにして、畜産農家との連携で有機肥料を活用した野菜生産に進化している。

鶏頂山開拓 「鶏頂山開拓賛歌」

- ①調査日 2016年6月24日
- ②所 在 塩谷郡藤原町大字高原
- ③地区の沿革 鶏頂山山地山腹標高1200米で軽しような火山灰土で地力が低い原生林を人力で開墾。雑穀を栽培したが収入に見るべきものがなく27年から夏大根を栽培。高冷地の悪条件を克服、夏大根、ほうれん草の一大野菜産地。
- ④設置年月日 昭和44年10月
- ⑤設置者 入植者
- ⑥碑 名 開拓20周年記念碑
- ⑦碑文（表面） 鶏頂山開拓賛歌
荒れた野山を拓かれた 天地の神みそなはず
風さわやかな我が郷土 塾誠こもる愛と汗
起て総親和総努力 開拓の意志うけつぎて
永久に栄えんわが楽土
- ⑧碑文（裏面） 鶏頂山初代開拓者夫婦19組氏名
昭和四十四年十月 開拓二十周年建立
- ⑨現在の状況 日光市高原共同墓地隣接地で管理されている。

